「脱・受け身」の精神で、私たちの南相馬を取り戻す。

高橋美加子

株式会社北洋舎クリーニング
代表取締役

震災を通じて私は「当たり前」ということの大切さを身をもって知りました。避難先から10日後に南相馬に戻り、四月にはクリーニングを再開したのですが、開けようとしたシャッターの下に待っている人の足が見えるんですよ。家で洗っていいのかわからない、そんな人たちが待っていたんですね。汚れた服をきれいにする、そんな「当たり前」のことにこの仕事の本質があると実感しました。

同時に、失ってしまった「当たり前」の大きさに気づいたことも。自分の土地のものが食べられなくなってはじめて、海や山、豊かな土地に暮らしていたんだなって。相馬と双葉にある中小企業グループ85社のうち、1社を除いて事業を再開しました。自分たちが仕事を続けなければ、この町がなくなってしまう。そう信じて、みんな町に帰ってきたんです。

私たちを支えた、ひとつの考え方。それが「脱・受け身」。

待つのではなく自ら動く、一人革命です。補償をあてにせず事業を再開した経営者も、自分の意思で戻ってきた従業員も、脱・受け身。私たちはまず、復帰してくれた従業員のために働きやすい環境を整えました。次に、その家族や子どもたちが過ごしやすい環境を考えました。そうやって少しずつ「当たり前」をよみがえらせてきたのです。人の生活は住んでいる場所と共にあります。平凡な所だと思っていた南相馬ですが、私たちにとってかけがえのない町。南相馬に来てください。私たちと話して、私たちが取り戻そうとしている「当たり前」を感じてください。

HORIBA
Explore the future

HORIBAはかることしかできない分析・計測メーカーですが、数値では表せない事実を伝える役目もあると感じています。この広告紙面を使い、福島のいまを伝えていきます。

「社会のセンサーでありたい。」株式会社 堀場製作所

2014.09.18. 日刊工業新聞